

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	学校課題研修における「個別最適な学び」と「協働的な学び」のさらなる推進と習熟度別など個に応じたデジタルコンテンツの有効な活用方法を共有できるように今後も授業改善に取り組んでいく。また、「全国学力・学習状況調査」や「さいたま市学習状況調査」の結果を分析し、各学年の課題を明確にしながら指導改善に生かせるようにしていく。次年度も児童主体の学習を継続していくとともに、「何を学んだのか」を一人ひとり蓄積していけるようにスクールダッシュボードの活用にも取り組んでいく。
思考・判断・表現	今年度引き続き研修などを通し、「自分の考えが伝わるように表現すること」「話し手の意図を捉えながら聞くこと」を意識した話し合い活動や根拠を明確にして自分の考えを伝え合うICT活用を授業の中に積極的に取り入れ、思考ツールを用いた授業実践を増やしていく。また、「全国学力・学習状況調査」や「さいたま市学習状況調査」の結果を分析し、正答率の低い学習内容や領域を学校全体で共有し、指導の改善を図っていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・国語「主語と述語の関係を理解すること」、算数「割合の概念」に関する領域で課題がみられる。 <指導上の課題> ・「書く」学習において、伝える内容が明確になるように、観点や視点を示し、文章を推敲し合う必要がある。また、デジタルコンテンツ等を活用した反復練習での習熟を図っていく必要がある。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等のデジタルコンテンツを活用した授業改善を推進する。授業以外にも、週1回、朝のGIGAタイムや個別の学習履歴を活用しながら、個に応じた指導の充実を図る。また、学習内容の定着を把握し、児童自身が「何を学んだのか」のデータを蓄積するために、スクールダッシュボードの振り返り機能等の活用を図る。【通年・国語、算数の各単元につき1時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・国語「自分の考えが伝わるように表現することができる」に関する領域で課題がみられる。 <指導上の課題> ・目的意識や相手意識をもたせ、話す前に必要な材料と関連付けながら表現できるように指導する必要がある。	⇒ GIGA端末を授業内で効果的に活用し、話し合いを可視化したり、他者の考えに触れたりすることで、互いの考えを深めることができるようにし、思考力や判断力を育成する。また、高学年においては、教科担任制による専門性を高めた指導力を教師に身に付けさせ、指導方法の改善を取り組み、協働的な学びを取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。【通年・国語、算数の各単元につき1時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	全学年、教科書の適用問題やドリルの問題に取り組むだけでなく、GIGAタイム(業前)の時間や授業、単元の終わりにICTを活用したドリルパークやスタディサプリに繰り返し取り組むことで、習熟を図ることができた。また、ICTを用いることは、一人ひとりの学習進度に対応した個別支援の時間確保にも効果的だった。
思考・判断・表現	A	本校では昨年度から「自ら考え、進んで伝え合う大砂土っ子の育成」という研究主題のもと、「問題解決に向けて、自分の考えをもち、伝えられる子」の育成に努めてきた。その中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を意識した授業実践を行うことで、児童同士の話し合いが活発になり、思考力・判断力・表現力を育成することができた。また、高学年を中心に1人1台端末を生かした授業を展開し、オンラインプラスなどの思考ツールを効果的に活用することで、児童が主体的に伝え合う場面が増えたことにより、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、算数、理科すべての教科で全国平均を大きく上回っている。特に、国語においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に顕著な結果が見られた。算数についても各項目で全国平均を大きく上回っている。しかし、「台形の意味や性質について理解しているかどうか」の問いでは、他の項目と比較して正答率があまり高くない。すべての教科に共通して、子どもたちが自ら課題を解決するためには知識の定着が不可欠であることから、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を取り入れた授業を実践し、更に基礎知識定着を目指す。
思考・判断・表現	国語、算数、理科すべての教科で全国平均を上回っている。しかし、国語においては昨年度も課題であった無回答率について、今年度も高い項目が見られる。また、3教科の中でも特に、理科の「結果を基に結論を導いた理由を表現することができる」の問いで、他の項目と比較すると全国平均との差があまりなかった。自ら考えた内容を相手に伝えたり表現したりする活動を重視していきたい。また、今年度、本校の目指す児童像でもある「問題解決に向けて、自分の考えをもち、伝えられる子」の育成を目指した授業を今後も継続していく。そのためには、「個別最適な学び」や「協働学習」を取り入れた「大砂土小授業モデル」の作成を行い、手だてを積み上げて教職員間で共有していく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	すべての学年・教科で市の平均を上回っている。特に、算数では全学年で市の平均を大きく上回っている。しかし、高学年では、国語「主語と述語の関係を理解している」、社会では「見沼代用水の流路図を読み取ることができる」「2つの資料を比較しながら変化について読み取ることができる」、理科では「乾電池の直列つなぎについて理解している」「ろ過の適切な方法について理解している」の項目で課題が見られた。特に、国語では昨年度同様の課題が見られた。これらの結果から、確実な学習の積み重ねが重要であるということが分かる。また、社会の学習では、系統性を意識した資料の読み取りや資料の活用を授業の中で取り入れていく必要があると考える。
思考・判断・表現	ほぼすべての学年・教科で市の平均を上回っている。特に、3年生の算数、5年生の社会では、市の平均を大きく上回っている。しかし、国語では「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけて読むことができる」、算数では「グラフを読み取ることができる」の項目で課題が見られた。また、社会では「自然条件に合わせて、どのような建物がふさわしいか考え、選択することができる」「輸送手段とその特徴を、考えることができる」の項目でも課題が見られた。これらの結果から、資料を読み取り、自分の考えをまとめる学習を授業の中に取り入れていく必要があると考える。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や週1回実施している「GIGAタイム」を積極的に活用することができた。また、家庭でも取り組めるようにすることで、基礎知識の定着を図ることができている。スクールダッシュボードを活用する機会は増えているが、より効果的な活用ができるように、今後も授業改善等に生かしていく。	変更なし+左記による
思考・判断・表現	B	協働学習をする際、GIGA端末を積極的に活用し、互いの考えを深めることで一定の効果を得られた。また、教科担任制を行うことで、専門性や指導力を高めながら、協働的な学びを取り入れた授業実践をすることができている。今後は、協働的な学びを通し、積極的に自分の考えを表現することができるような授業の充実を図っていく。	変更なし+左記による